

平成19年第4回小金井市教育委員会協議会議事日程

平成19年4月10日(火)

午後1時31分開会

開催日時	平成19年4月10日	開会 1時31分 閉会 1時50分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員 長 伊東 浄堯 委員長職務 代理者 亘理千鶴子 委 員 菊地 邦夫	委 員 伊藤 恒子 教 育 長 谷垣十四雄	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 本多 龍雄 生涯学習部長 石川 明 学務課長 福田 協司 庶務課長 北村 高 指導室長 富士道正尋 指導主事 風見由起夫	生涯学習課長 伊藤 信之 兼生涯学習係長事務取扱 公民館長 中嶋 登 図書館長 田中 肇 スポーツ振興課長 林 文男 庶務課長補佐 淀川 章 兼庶務係長	
調 製	主 任 山内 和子		
陳 情 者	岩井 幹明(議案第14号) ほかに4人		
傍聴者人数	3名		

日程	議 題	
第 2	議案第 1 4 号	「小金井市子ども読書活動推進計画」の実施状況についての陳情書

伊東委員長

教育委員会協議会を開会する。

「小金井市子ども読書活動推進計画」の実施状況についての陳情について、陳情者の発言をお願いします。

ここで委員長から発言者にお願ひがある。発言内容については、記録を作成し、発言された全文が委員会記録とともに公開されるので、ご承知くださるようお願いする。したがって、個人のプライバシーを侵すおそれや、個人の名誉や尊厳を傷つけるような発言はしないよう、十分ご配慮をお願いする。そのような発言があった場合には、発言を制止し、記録を削除、訂正することもあるので、あらかじめご承知おき願う。

なお、発言時間は15分以内ということで、よろしく願ひする。

なお、発言者は、小金井市中町二丁目20番14号、岩井さんである。よろしく願ひする。

陳情者

改めて、皆さん、小金井の教育のために頑張ってください、本当にご苦労さまである。

きょうは、子ども読書推進計画を、ここにおいでになっている方は少ないと思うが、3年前に、市民と行政、教育委員会とでつくった、それで3年経ったと。その結果を古屋図書館長のほうから、去年の9月と11月に読書推進計画の進捗状況として発表された。

読書活動推進計画は平成16年3月に制定され、4月から実施となっている。それで、市政の主役は市民であるという、いわゆる市民参加条例を見たら、市民の参加とは協働だと、まず一緒になってやっていくんだと。もう一つは、市民参画というか、参加というか、要するに、計画の段階から市民が参加するという一つの見本というか、小金井市が始まって以来、初めて市民と一緒にやってつくった一つの施策ではなかったのかと、それが、子ども読書活動推進計画というふうに私は思った。

本当に行政の人たちも一緒になって随分、こんなことを本当にできるのかなという心配をしながらも、我慢するというのか、あるいは住民と一緒にやっていくことを重視したというのか、そういう点で非常に頑張ってください、そしてつくったのが、小金井市子ども読書活動推進計画である。それまで八王子ができて、足立

ができて、3番目か4番目ごろ、小金井が都内では先進的な形でできたわけである。それが、例えば、この前も調布の図書館に見学に行ったときに、調布は去年つくったといから、小金井市より2年後ぐらいになっているが、調布の図書館長さんや担当者の人たちが、大変参考になってよかったと。三鷹の図書館に行ったときにも、大変参考になってよかったと。調布も三鷹もみんな小金井の図書館より先進である。そんな意味で、大変充実した内容の読書活動推進計画だったと、小金井市民として自負したわけである。

それで、3年経ち、去年の8月と、11月の2回にわたり、子ども読書推進計画の進捗状況が示された。お手元に出している資料の、3枚の後ろのほうにあるのが、11月分である。これは私が拡大しているものであるから、皆さんのほうは小さいやつであるが、一番おしまいのところ、3枚分の図書館長がつくった資料がある。それをみんなしてああだこうだと読み、5項目についてお願いしていること。

時間がないので、すぐそのまま項目に入るが、陳情の1ページに、推進協力者の立場から私たちは物を考えているというふうに、趣旨の最後のほうに書いてあるが、推進協力者というのは具体的にはどういうことなんだとって、前に読み聞かせ活動を子どもたちにして、ボランティア活動をやっているとか、あるいはおはなし会をやっているとか、そういったようなことを含めて、具体的に市民がどのようにこの計画に参加するかということを、できるだけ多くしていこうというふうに、私たちは具体的にやってきた。

そうした中で、一昨年、図書館長さんから、図書館の見直しというか、小金井市の図書館のあり方というか、そういった答申が出されるわけである。そのときに、一番最初に申し上げた協働と参加の問題が出てくる。こういうふうに言っている。平成17年6月15日に、小杉山会長さんから古屋図書館長に答申している。その答申の中身の一番最初であるが、生涯学習時代の文化の拠点となる図書館の役割や運営改善等について、本協議会の意見を述べるが、図書館長及び図書館職員は、これを市民の声として真摯に受けとめ、市民が図書館を利用しやすくするために最大限の努力をすべきであるというふうに、初めに書いている。そういう気持ちは全くそのとおりであって、私たち市民も同感した。

そして、図書館の管理運営体制の見直し、あるいは改善、そうい

った面で、ア、イ、ウ、エとあり、イの中に、「子ども読書活動推進計画」に基づくサービスの充実という項目がある。その項目の中に、図書館自身が子どもたちに対してきめ細かなサービスをしていくこと、市立小中学校図書館との連携が何よりも大切であるというふうに指摘して、そして、地域読書活動の活性化というので、ア、イ、ウで、地域の読書活動団体との事業連携として、平日の読み聞かせ、障害者向けの点訳、市報の録音などが行われていると。そういったことを十分にやりながら、市民との協働の視点から、各種講座、講演会、読み聞かせ会等の場を積極的に提供する必要があると、こういうようなことが全部子どもの読書活動推進計画には書かれているわけである。それを、より具体的にやっという答申が17年に出されたわけである。

そういう状況、裏打ちがされている中で、さっきから申し上げた、第2回提出新旧変更分という資料である。これが3枚のやつである。小金井市子ども読書活動推進計画の目標年度を見ると、例えば、1、家庭・地域、ア、子どもの読書の必要性和推進のためのPRというのがある。PRというのはどんなことをするんだということで、ここに書いてあることを確かめてみた。これが最初の子どもの読書活動計画の原本である。これに書いてあるのを見るとこうなっている。8ページに、第3章、小金井市子ども読書活動推進のための取り組みの中の第2項に、市の取り組みとあって、市報・ホームページ等を通じ、子ども読書活動の必要性和推進のためのPRを行うと。市ホームページを見ると、読書活動推進計画の中身がずっと出ていた。今も出ていると思うが、そうやっている。ところが、この3年間に、市報にこのことが出たか出なかったかを確かめてもらった。そうしたら、出ていないみたいなんだと、まだはっきりしないのである。私たちがこの点についてはうっかりしていた。申し訳なかった。私なんかは何で気がつかなかったかと思い、反省している。

そんな中で、市報に1回も載っていないことは非常に残念だったと考えて、お願いすることにしたのが、第1項の、市報で、「読書活動推進計画」を計画的にPRするために、下記のことも参考にして、積極的に取り組むようにしてくださいということを、図書館協議会のほうに検討してくださいということをお願いすることになるわけであるが、それが第1点である。

時間がないので、例えば、読書の日、4月である、今月である。

幾日か知っている人、いるかとやると、ほとんどわからない。4月23日、何々小学校、何々小学校、何々小学校と、3校電話してみた。そうしたら、どこも掲示板には読書の日と書いていなかったという状況であった。であるから、PRがどんなに大事な事かということの一つの裏打ちになると思う。

第2の、児童室の蔵書構成を、「読書推進計画」が実施できるように、抜本的な充実を図るために、以下のことを検討してください。ここで資料の本文の4ページを見てもらいたい。4ページを見ると、小・中学校図書館の図書購入の決算額、市立児童室の決算額が、例えば、17年度分で言うと、小学校が477万3,000円、中学校が556万8,000円、市立児童室が845万3,000円となっている。そういうような予算の使い方、どれだけの蔵書が構成されているかということである。

それで、確かめてみると、この施策の本文を見ると、施策項目Aに、図書費の増額・配架の見直し、そういうふうにしてあり、魅力ある子どもの蔵書構成を図るため、図書費の増額及び配架の見直しを図ると。図書館児童室も……。

伊東委員長 岩井先生、あと1分ぐらいなので、ひとつよろしく願います。

陳情者 本当だ。

伊東委員長 済まない。

陳情者 済まない。

簡単に言うと、要するに、小金井の学校図書館にも、それから市立図書館にも、子どもが情報活動をするための資料や、学ぶための資料が非常に古くなっている、それから、ないのが大部分だと。なぜかといえば、児童室にも学校図書館にも文学以外は本当にわずかしかない、そういう実態が市教委の資料で明らかになっている。これは市教委が悪いとか、学校が悪いとか、図書館が悪いとか、そういう問題ではない。つまり、子どもたちにこういう資料を図書館で整備しようということが、お互いに今の情報化時代だとか、フィンランドの学力テスト世界1位じゃないが、読書の、地域のほうがどんなに必要かということがわかっていないので、それが一番の原因

だと思いが……。

伊東委員長 済まない。これで15分経過したので、打ち切る。短くて大変済まない。よろしくお願いします。

陳情者 委員長さん、済まない。というわけで、子ども読書推進計画の5項目についてこれからもどうぞよろしくお願いします。

伊東委員長 休憩する。陳述者の発言を終了させていただく。

閉会 午後1時50分